

令和元年度 第2回 豊後大野市地域公共交通会議  
豊後大野市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日時：令和2年1月27日（月）13：30～  
場所：豊後大野市役所 5F 委員会室



1. 開会

事務局：ただいまより、令和元年度「第2回豊後大野市地域公共交通会議及び豊後大野市地域公共交通活性化協議会」を開始いたします。

2. 会長あいさつ

会長：みなさんこんにちは。副市長の石井です。何かとお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。また、日頃より公共交通行政へのご協力いただきありがとうございます。高齢化の進展、買い物、通院などへのニーズの他、昨今では運転免許証の返納などから、その代替手段も求められています。また人口減少に相まって、運転士の不足、自治体の限りある財源でどこまで運行できるのかといった課題は多々ありますが、このように多様な主体から皆様のご参加によりこの問題に対する解決策を議論する場であります。本日は昨年11月19日実施されました大分大学、三重総合高校の生徒が実施した社会実験「大人の社会見学」について報告いただきたいと思います。本日は2件の議題を用意しておりますので、その点についてもご議論よろしく願いいたします。

3. 大分大学経済学部経営システム学科大井ゼミ3年生による発表

大井ゼミ（学生）：発表（省略）

事務局：ありがとうございました。今の発表の中で質問がありましたらお願いいたします。

会長：私から一点、今後コミバスを利用するのは44%あったとのことですが、残りの50%は「いいえ」であると思われそうですが、今後その50%を「はい」へと誘導するにはどのようなことが考えられると思いますか。あるいは事業効果を高める方法について教えてもらえますか。

古川：一つ目の質問ですが、住民の意見を聞いたとき、自分の家は路線より少し遠いという方がいました。バス停を自宅の近くに配置できるか、小さい道まで乗入れできるかが実現できれば、乗りたいという人も乗りやすくなると思います。

平川：次回に向けての提案ですが、高校生アンケートにもありましたように、場所の選定が遅かった、利用見込みのある人をターゲットにすべきとの意見がありました。自分たちも当初は犬飼であるとの予想がありましたが、結果三重地区になってしまったこと。利用見込みがある人については、三重地区は自家用車を使える人が多いこと、コミュニティバスに関心を持っていない方が多く、清川などの山間部で、よりコミュニティバスを使いたいと思っている人を対象に実施すべきではなかったかと思いました。

会長：利用促進についてはバス停の位置や路線の設定について改善点があるとのことでしたので、私たちもその点検討していきたいと思います。また、バス停が遠くてもそこまで歩くことで健康を保つという視点も考えられるかと思います。それから、ターゲットについて山間部などニーズのある人へのアプローチも考えていければと思います。

矢野委員：山田線はもともと利用が多い路線でした。令和になり、急激に落ちてきています。バス停の位置は従前からそれほど変わっていないと思います。日常的に利用している人が3名だけだったということですが、なぜ乗らなくなったのかということについて、どのような意見が出ていましたか。

孝忠：意見としては以前利用していた方々がお亡くなりになられたというのが出ておりました。

平川：集落調査として山田線沿線を回りましたが、以前乗っていたが、亡くなられたり、病院へ入院してしまったりしたのが、減少の原因ではないかと考えております。

事務局：報告ありがとうございました。ここでゼミ生は退位いたします。

#### 4. 報告事項

(1) コミュニティバス、あいのりタクシーの運行状況等について

(2) 利用者満足度調査について

大井委員：満足度調査は、どのような方法で配布されたのでしょうか。

事務局：アンケートについては、バス車内に設置し、運転士に配ってもらいました。

大井委員：犬飼が0票であるというのが気になります。

事務局：市内全域に配布しましたが、結果としては、犬飼は回収数が0ということでした。

天野委員：先ほどの説明で自治会連合会で説明されたとのことですが、連合会での反応について教えていただけますか

事務局：トリガー制度について説明し、ドライバーが不足していること、利用状況により減便や増便をするということの説明いたしました。ただ減便や廃止をするということではなく、利用が多い所にその分を振り分けるということも説明しました。また、路線要望の方法についても、区長を通じて可能である旨、お伝えしました。

会長：その他ありますか。先ほど事務局説明の中で出ていた、回送便の実車化については対応できますか。

事務局：検討いたします。

#### 5. 議題

(1) バス停コンテスト及び優良乗務員表彰（案）について

事務局：説明（省略）

会長：本件について、ご意見ありますか。受賞候補についてなど、皆さんからご意見があればお願いします。

矢野委員：利用が多いバス停の順位の7位まですべて対象とするのでしょうか。

事務局：全部ではなく、これまで受賞していない上位3つの停留所で考えております。

矢野委員：番号でいうと、3，5，6ということですか。

事務局：はい、そうです。

矢野委員：P2の過去のデータを見ると受賞しているバス停の利用は3人/日以上でしたが、今回は3人/日に満たないバス停があります。1年間で一日当たりの利用者が多いバス停を対象にすると言っている以上は、ある程度の利用者数以上のバス停を選定するなど、条件を考えるべきではないでしょうか。

会長：ここで確認ですが、3人を切った場合も利用の多いバス停ということで表彰を出すのかということですが、その評価基準などは有りますか。

事務局：人数の評価基準は計画の中にございませぬ、網計画は令和3年度までの計画

となっておりますので、それまでは上位3つのバス停を表彰することにしたと考えております。

大井委員：今回、受賞回数の制限を設けるという規約を改正せずに表彰対象を決めるということですが、大丈夫でしょうか。あと私は何回受賞しても良いと思っております。それだけ地域が継続的に頑張っているということですので、その点は評価すべきではないかと思えます。

会長：規約の改正については、今回委員の皆様の承認をいただければ、後は手続き上、次回の協議会で報告させていただく、ということで問題ないかとは思いますが、ただ、今の大井委員から、従前の規約のまま、何度受賞しても良いのではないかと指摘がありましたが、ほかの皆さんはいかがでしょうか。

中山委員：表彰の賞品は具体的にどのようなものが渡されるのでしょうか。

事務局：利用者の多いバス停はバスの回数券とベンチを副賞に差し上げております。

中山委員：地理特性があつて、頑張ってもどうしても上位に入れないところもあるかと思えます。

事務局：先日の運営協議会で、絶対に人数が少ないところが不利ではないかというコメントがありました。もう一つ、副賞がベンチであるため、同じバス停に何個もベンチを置いても仕方がないという事情もあり、今回、受賞回数の制限を設けるという提案をさせていただいているところです。

大井委員：角門については、3回受賞して、4回目を辞退したのでしたでしょうか？

事務局：角門については4回受賞されており、2つしかベンチが設置できなかったため、残り2つは近くのバス停に設置させてもらっています。

会長：ほかにご意見はございますか。ベンチを受け取る方も何回も受け取っても困るという意見もありましたが、一方で、1日当たりの利用が例えば一人になっても受賞対象とするのか？利用状況の下限を設けても良いのかと思えますが、いかがでしょうか。

大井委員：乗合のバス事業ということで、相乗りしていただくということを考えると、2.0人/日以上はないと厳しいかと思えます。

天野委員：下限ではありませんが、集計が大変かもしれませんが、前年より大きく増えたといった内容が確認できれば、良いのかと思えます。各地区の方々が「頑張った」という実績を評価できる1つの指標ではないかと思えます。

会長：今のお二方のご意見を踏まえてよろしいですか。それではほかにご意見はございませんか。特にならなければ受賞は上位3つ、受賞歴のないバス停とする、受賞回数の制限については、規約を改正するというご承認いただきたいと思います。詳細の改正内容は次回の協議会でお示ししたいと思います。それでは皆さんの承認をいただいたということによろしいでしょうか。

一 同：異議なし。

会 長：ありがとうございました。それでは続きまして議題の2番目に移ります。

(2) 令和元年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価(案)について

事務局：説明(省略)

会 長：質問はございますか。よろしければ本件について承認をお願いいたします。

一 同：異議なし

## 6. その他

会 長：その他の事項について何かございますか。

大井委員：本日は学生のために諸々ありがとうございました。今後何かお気づきの点がありましたら、私までお知らせください。

なお、毎年行っておりますが、この事業の成果発表をJCOMMという学会で実施しています。今年は7月に松江で開催予定です。

また、新年度も継続して実施していただければ、と思いますので、地域から実施したいというご要望があれば、是非よろしく願いいたします。

## 7. 閉会

事務局：長時間ありがとうございました。次回の会議は2月19日水曜日でバス停コンテストの表彰式と合わせて実施したいと思います。

それではこれにて閉会いたします。本日はありがとうございました。